



漏水防止のため山肌をアスファルトで覆った大門ダム

大門ダムに土木学会技術賞

アスファルト使い、「漏水防止」

9年かけ工法研究

高根 県土木部で初の受賞

県が大門ダム工事で採用した山肌をアスファルトで覆う漏水防止工法の技術が高く評価され、社団法人・土木学会からこのほど技術賞が贈られた。この賞は土木工学の分野では最も権威があり、県土木部が表彰を受けたのは、今回が初めて。

大門ダムは、北巨摩郡高根町浅川の大門川に、洪水調整、農業用水、上水道の確保の多目的ダムとして造られた。本格的に建設が始まったのは五十五年だが、建設のための調査にかかったのは四十一年。その結果、ダム右岸が、八ヶ岳の火山性岩盤で漏水性が高いことがわかった。このため建設候補地は二転、三転した。

しかし、貯水量をより多く確保するには、現在の場所が最も適当だと判断された。そこで建設省土木研究所や学識経験者らで大門ダム検討委員会を作り、九年間かけて検討した結果、厚さ三十センチのアスファルトで山肌を覆う「アスファルトフェイシング」を採用することが決まった。

この技術は、すでに他のダム建設でも採用されているが、大門ダムのように四万二千平方メートルと広いのは、全国で初めて。同研究所の指導を受け、中間部分に水を通すアスファルトを使うなどの排水対策を講じ、難問を克服した。国内では、ダム建設の好適地には、すでにダムが造られている例が多い。今後は、同ダムのように悪条件の場所が多くなる。今回の成功で、漏水性の高い岩盤地域でも建設が可能になったことが、受賞の理由。

大門ダムは、高さ六十五・五メートル、長さ百八十メートル、総貯水量三百六十万トン。ダム本体などはすでに完成、昨年十一月から貯水

を始めている。今年度いっぱいかけて緑化など周辺整備事業を進め、来春落成の予定。総事業費は百七十三億円。